

◆第4学年 学習指導案◆「五音音階で音楽をつくろう」

教材：『五音音階による音楽づくり』

府中市立府中第一小学校

第4学年1組 34名

指導者 鳴海 さゆり 主任教諭

1 題材の目標

- (1) 音階や旋律の特徴と曲想との関わり、音のつなげ方の特徴に気付くとともに、音楽の仕組みを用いてまとまりのある音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 旋律の音の動きの特徴を聴き取り、それらの組合せが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律のつなげ方を工夫し、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 沖縄の五音音階や、反復や呼びかけとこたえを用いてまとまりのある音楽をつくることに興味をもち、友達と協働して音楽をつくる学習に進んで取り組み、沖縄の音楽のよさに親しむ。

2 題材について

(1) 研究主題との関連

①児童の実態から

第3学年より本学級の音楽科の授業を受けもっている。

音楽づくりについては、3年生で反復や変化を用いてまとまりのあるリズムをつくったり、打楽器を使って音の出し方を試しながら、音の響きや組合せを工夫して「まほうの音楽」をつくったりする学習を行った。4年生の1・2学期には、即興的に短いリズムや旋律をつくる学習をした。

本題材は、友達と協働してまとまりのある音楽をつくる学習である。沖縄の音階を用いることで、児童が面白さを感じて主体的に学習し、五音音階を用いることで旋律づくりに取り組みやすいと考えた。また、音楽の仕組みを活用し、協働してまとまりのある音楽をつくることにより、自らの学びを深めることができると考えた。

②題材の意義から

本題材は、沖縄の五音音階で一人一人が8拍の旋律をつくり、その旋律を反復や呼びかけとこたえを用いてペアでつなげて、8小節のまとまりのある音楽をつくる学習である。

見つけよう

本題材に至るまでに取り組んだ常時活動や既習事項を生かし、自分の旋律をつくり、友達とつな

げて音楽にする活動の中で、主体的に学んでいく楽しさを見付けることができると考えた。

深めよう

各自がつくった旋律をつなげてまとまりのある音楽をつくるときには、友達と旋律の特徴やつなげ方について話し合い、思考を深め、音楽表現を高める協働的な学習を目指す。友達の表現や自分の表現のよさを知ることで学びが広がり、自分の表現に取り入れることで学びが深まると考えた。

生かそう

ワークシートに音楽をつくった理由を書き込むようにし、教師はそれを読み取り、指導と評価に生かす。自分で音楽をつくる経験が、音楽的な見方・考え方を働かせて学びを深めることにつながっていくように題材を構成した。

以上のように、研究主題「見つけよう 深めよう 生かそう 音楽を」に迫りたい。

(2) 学習指導要領との関連

【A表現：音楽づくり】

(3) ア(ア)(イ)・イ(ア)(イ)・ウ(ア)(イ)

本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア 旋律、音階、フレーズ

イ 反復、呼びかけとこたえ

3 教材について

●五音音階による音楽づくり

本題材では、以下のような条件や手順で音楽づくりを行う。

- ① ド・ミ・ファ・ソ・シの5つの音で構成される沖縄の五音音階を使用する。
- ② 8拍目は4分休符とし、一人一人が4分の4拍子2小節（8拍）の旋律をつくる。
- ③ 上行形，下行形，山型，谷型を基本として音をつなげる。
- ④ 木琴，鉄琴，グロッケンを使ってつくる。
- ⑤ つくった旋律をペアでつなげて，4分の4拍子で8小節のまとまりのある音楽をつくる。

五音に限定することが発達段階に即していると考えた。また，終止音がドと児童にとってなじみがあり，五音の特徴を生かした音楽づくりに取り組みやすいと考えた。

木琴，鉄琴，グロッケンなどの音板楽器を使用して音楽づくりの学習をする。音板を外せるタイプの楽器を用意することや大型の楽器にはオクターブの音域ごとにシールで色分けして3～4人で使用することで，五音をわかりやすく示すことができ，旋律をつくる学習や，つくった旋律を演奏する活動に適していると考えた。

参考曲 鑑賞は，音階の特徴等に気付き，音楽づくりの手掛かりを得るための活動として位置付ける。

●『こきりこ』 富山県民謡

教育芸術社 小学生の音楽4 令和2年度～ 鑑賞用CD ISBN978-4-87788-888-6

富山県五箇山地方に伝わる民謡である。豊作を祈願する芸能である田楽の中で歌い踊られてきた選択無形民俗文化財として伝承されている。味わいのあるゆったりとした速度で歌われている。

●『谷茶前節』 沖縄民謡

教育芸術社 小学生の音楽4 平成27年度～ 鑑賞用CD ISBN978-4-87788-666-0

沖縄本島の民謡と踊りである。歌詞は，沖縄の農漁村の風景を表現している。三線や臼太鼓の弾んだリズム前奏に続き，沖縄の五音音階を使って楽しそうに歌われている。

●『ていんさぐぬ花』 沖縄民謡

教育芸術社 小学生の音楽4 令和2年度～ 鑑賞用CD ISBN978-4-87788-888-6

沖縄本島に伝わる民謡である。歌詞は，親や年長者の教えに従うことの重要性を説く内容である。三線の伴奏に合わせてゆったりと滑らかに歌われている。

3曲を聴き比べることで，曲の感じや旋律の特徴の違いに気付くことができると考えた。

第1時では『こきりこ』と『谷茶前節』を聴き比べる。五音音階でも構成音により曲の感じが違うことに気付き，音楽づくりで用いる沖縄の五音音階の特徴やよさを捉えられると考えた。

第5時では，同じ沖縄の五音音階でできた曲の感じの違いを2曲を聴き比べる。自分たちのつくった音楽の特徴に気付き，表現に生かすようにする。

4 研究主題に迫るための手立て

視点1 「見つけよう」主体的な学びの視点からの学習過程の工夫

① 音や音楽との出会いの場の工夫

「つくる」活動を楽しむためには，即興的な表現の経験を積み重ねて，どのような音楽をつくるかの発想を得ていくことが大切である。本題材の学習に入る前までに，即興的な表現との出会いとしてリズムや旋律の模倣，短いリズムや旋律づくりの学習に取り組んだ。

また，本題材で生かしていく既習事項は，歌唱や器楽の学習で，曲の中から反復や呼びかけとこたえを見付けること，音楽づくりの学習で，音や音楽を図や文字，音符で記録することなどである。

既習の音楽との出会いで得た知識や技能を活用したり，新たな知識や技能を獲得したりしながら学習を進めることで，主体的に学習を進めることができると考える。

② 見通し，振り返りを大切に学習の充実

主体的に取り組むためには，課題や活動の手順が分かりやすいように，つくる過程をスモールステップで示し，見通しをもって学習に取り組めるようにする。

また，ワークシート，掲示物，板書を通して児童が学習した過程を振り返ることができるようにし，学びを自覚しながら主体的に学習を進められるようにする。

視点2 「深めよう」学びを広げ深める，対話を取り入れた学習の充実

① 児童同士の対話を生かした学習の工夫

児童がつくった旋律を，音楽や言葉で対話しながらペアでつなげていく活動を通して，発想を広げることができるようにする。また，一人一人がつくった旋律をペアでつなげることにより，友達とつくった音楽で交流し，思いや意図を伝え合い，まとまりのある音楽をつくる。このように，音楽と言葉による対話を充実させることで，学びが深まっていくと考える。そのために，曲の感じを表す形容詞の一覧表を活用して語彙を増やし，自分の思いや感じたことを，音楽を形づくっている要素と結び付けて考えるようにする。

② 学びを深める教師の関わり方の工夫

音楽づくりの発想を得たり広げたりするためには，適切な条件を設定して全員で音楽をつくる体験が有効である。初めに，即興的に短い旋律を反復したり違う旋律とつなげたりする活動を体験する。ここで反復や呼びかけとこたえを学び，始め方や終わり方の発想を得ることもできる。全体での学びを，一人一人あるいはペアでの音楽づくりの学習に生かすことで，思いや意図をもって取り組み，学びを深めていく。

また，教師が児童の変容を捉えて，発想を生かした表現や，思いや意図に合った表現を紹介し，価値付けして共有することで，自己や他者の思いや意図，表現のよさを再確認し，学びが深まると考える。

視点3 「生かそう」学びを生かし，つなげる指導と評価の工夫

- ・これまでの既習事項を生かし，音楽を形づくっている要素と自分の思いを結び付けて考え，言語化することができるよう児童の状況に応じた教師の助言をする。
- ・ワークシートになぜそのように旋律をつなげたのかを記入することで，児童自身が思いや意図を明確にすることができると思った。教師は，ワークシートから児童の思いや意図を見取り，助言や評価につなげることができる。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①音階の構成音の組合せ方の特徴について，それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付き，設定した条件に基づいて，即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p> <p>②旋律のつなげ方の特徴に気付き，思いや意図に合った表現にするために必要な，反復や呼びかけとこたえを用いて，まとまりのある音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>①旋律やフレーズを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，即興的に8拍の旋律をつくることを通して音楽づくりの発想を得ている。</p> <p>②各自がつくった旋律の音の動きの特徴を聴き取り，それらの組合せが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え，旋律のつなげ方を工夫し，どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>①反復や呼びかけとこたえを用いてまとまりのある音楽をつくる活動に興味をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習に取り組もうとしている。</p>

6 題材の指導計画と評価計画

5 時間扱い

時	○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ T「教師の発問や価値付け」	◆ 評価規準 (評価方法)
<p><第一次のねらい> 沖縄の五音音階の構成音に気付き、音のつなげ方を工夫して、即興的に8拍の旋律をつくる。</p>			
1	<p>○ 沖縄の音階の特徴や旋律の感じに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『かえるの合唱』の旋律をハ長調と沖縄の音階で演奏し、聴き比べて、違いに気付く。 <div data-bbox="215 593 758 739" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せんりつがいつもきいている音楽とちがって不思議な感じがする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 『こきりこ』と『谷茶前節』を聴き比べる。 それぞれの曲の感じを言葉で表現し、2つの旋律の特徴の違いを捉え、沖縄の五音音階の特徴に気付く。 <p>○ 即興的に五音音階の旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドミファソシの五音で旋律模倣をしたり、即興的に旋律をつくり、友達とペアになって、つくった旋律を呼びかけとこたえでつなげたりする。 ・一人8拍の旋律をつくる。 <div data-bbox="215 1131 758 1321" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【旋律をつくる時の条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドミファソシの5つの音でつくる。 ・最後の音は ♯ で、一人8拍つくる。 ・上行形、下行形、山型、谷型などの音型で、1オクターブ内を行き来してつくる。 </div>	<p>◇ グロッケンでハ長調の『かえるの合唱』を演奏した後、音板を抜いてドミファソシの五音のみにし、再度演奏して構成音や曲の感じが違うことに気付くようにする。</p> <p>◇ ドミファソシの五音音階は沖縄の音楽によく使われていることを説明する。</p> <p>◇ 児童の発言を整理して板書し、旋律の特徴の違いを捉えやすくする。</p> <p>◇ 旋律づくりの発想を得られるように、まとまりを感じられる8拍の旋律を提示し、模倣するようにする。(視点2-②)</p> <p>◇ 模倣する旋律は以下のリズムを組み合わせてつくったものにする。</p> <div data-bbox="798 1288 1220 1355" style="text-align: center;"> </div> <p>◇ つくる条件を掲示し、一項目ずつ内容を確認する。(視点1-②)</p>	<p>◆ 知・技① (行動観察 ・ 発言内容)</p>
<p>< Aと判断される児童の状況例 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律をつくる条件を理解し、1オクターブ内を行き来しながら、様々な音形で即興的な表現を繰り返している。 <p>< Cと判断されそうな状況への手立て ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 即興的な表現が不得意な児童には、教師が始めの音や音形を指定し、4分音符のみで音の動きを意識して表現できるようにする。 ・ 旋律をつくる条件が理解できていない場合は、児童に始めの音を選ばせて、まずは隣の音につないで旋律をつくるように助言し、慣れてきたら音の動きを工夫するように促す。 			
2	<p>○ 即興的に8拍の音楽をつくり、音楽づくりの発想をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律をつくる条件を確認する。 ・ 設定した条件に基づいて(「教材について」参照)即興的に旋律をつくる。 	<p>T「何の音で終わった時が一番終わった感じがするかに気を付けて、友達と呼びかけとこたえで旋律をつなげてみましょう」</p> <p>◇ 終わる感じと続く感じの違いに気付くようにする。</p> <p>◇ 前時の学習内容を振り返り、音の動き</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・即興的に旋律をつくって、友達とペアで呼びかけとこたえで表現する。 ・終止音がドになると終わった感じがすることに気付く。 ・木琴、鉄琴、グロッケンで音を出しながら、音のつなげ方を工夫して、8拍の旋律をつくる。 ・気に入った旋律は、記録用紙に音の動きとリズムを記録する。 	<p>や連なり方を確認できるようにする。 (視点1 - ①)</p> <p>◇即興的な表現をする中で、気付いたことを生かしながら、音のつなげ方を工夫するように助言する。</p> <p>◇記録用紙は、気に入った旋律が一つできたら取りに来るようにし、1枚ずつ渡すことを説明する。</p> <p>◇記録の仕方が分からない児童には、教師が記譜を支援する。</p>	<p>◆思・判・表① 〈演奏聴取・記述内容・発言内容〉</p>
<p>〈Aと判断される児童の状況例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・即興的に様々な旋律を試しながら音のつなげ方を工夫し、音の動きや連なり方を意識した旋律をつくって、気に入った旋律を選んでいる。 <p>〈Cと判断されそうな状況への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音板を外せる木琴、鉄琴、グロッケンを用意して使う音を分かりやすくする。 ・旋律をつくる時は、4分音符のみで隣の音板に移動してつくるように助言する。 ・気に入った旋律を決められない場合は、試している音の動きとつなげ方を記譜し、考えを確かめるようにする。 			
<p>〈第二次のねらい〉反復や呼びかけとこたえの音楽の仕組みを使い、旋律をつなげてまとまりのある音楽をつくる。</p>			
<p>3 本時</p>	<p>○音楽の仕組みを使って、4分の4拍子8小節のまとまりのある音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで旋律をつなげて、8小節の音楽をつくることを知る。 ・例を見て、どのように8小節のまとまりのある音楽にするかについて考える。 <div data-bbox="225 1200 751 1368" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よびかけとこたえでつなげて8小節にする。 ・同じせんりつを反ぶくさせて8小節にする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が演奏する二つの旋律を聴き比べる。 ・ペアで音を出して試しながらカードを操作し、旋律のつなげ方を考える。 ・つなげ方が決まったペアは、カードを台紙に貼り、そのつなげ方に決めた理由を記入する。 ・いくつかのペアが中間発表をする。 	<p>◇前時で児童がつくった旋律のうち、旋律のリズムや音の連なり方が異なり、終止音がドのものと、そうでないものの合計4つを選んでおき提示する。</p> <p>◇違う旋律の4枚のカードを並べた場合(例1)と、反復や呼びかけとこたえを使って、8小節になるように並べた音楽(例2)を示し、違いを感じ取れるようにする。</p> <p>◇つなげ方を考えるときの手立ての1つとなるように、例1と例2、それぞれ音楽的な違いに気付くようにする。</p> <p>★〈Aと判断される児童の状況〉〈Cと判断されそうな状況への手立て〉は本時案 参照</p>	<p>◆思・判・表② 〈演奏聴取・発言内容・記述内容〉</p>
<p>4</p>	<p>○前時でつくった旋律を聴き合い、よさを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時でつくった旋律を1ペアずつ発表する。 ・聴いていた児童は感想を述べる。 	<p>◇思いや意図を確認できるように、どのようにつなげたかを口頭で伝えてから発表するように伝える。(視点3)</p> <p>◇つくった旋律のよいところや、思いや意図が伝わる部分を具体的に言葉で伝えて価値付けする。(視点2 - ②)</p>	

	<p>〈 Aと判断される児童の状況例 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの旋律をどのようにつくるかについての思いや意図を理解し、音の動きや連なり方、ペアとの旋律とのつながりを意識してまとまりのある音楽をつくっている。 <p>〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律のつなげ方を理解していない場合は、白紙のカードに階名を書き入れてワークシートに貼り、反復や呼びかけとこたえを目で見て確認できるようにする。 ・ペアで旋律をつなぐと音を出すタイミングが分からなくなってしまう場合は、ペアと一緒に演奏したり教師が合図を出したりして支援する。 	<p>◆知・技② 〈演奏聴取 ・発言内容 第3時と第4時を通し継続して観察〉</p>
<p>5</p>	<p>○『谷茶前節』と『ていんさぐぬ花』の曲の感じの違いを感じ取って表現に生かす。</p> <p>・2曲を聴いて、曲の感じの違いを感じ取って言葉で表現する。</p> <div data-bbox="215 694 758 907" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『谷茶前節』はせんりつやばんそうがはずんでいて、楽しく元気な感じがする。 ・『ていんさぐぬ花』はなめらかなせんりつで、ゆったりと落ち着いた感じがする。 </div> <p>○つくった旋律の特徴に合う伴奏を選び、伴奏と合わせて演奏したり聴き合ったりし、つくった作品の曲想、よさや面白さを感じ取る。</p> <p>・沖縄の五音音階による旋律（本時案 例2）を3つの伴奏パターンで聴く。</p> <p>・3つの伴奏パターンのうち、旋律の特徴に合う伴奏を選び、全体の響きを味わいながら、ペアでつくった旋律を演奏する。</p> <p>・1ペアずつ、伴奏に合わせて発表して全員で聴き合う。</p> <p>◇音楽を形づくっている要素のカードを使用して、曲の感じと音楽を形づくっている要素を結び付けて考えられるようにする。（視点2-①）</p> <p>T「自分たちのつくった音楽のよさが伝わるように、旋律の特徴に合った伴奏を選びましょう」</p> <p>◇以下の3つの伴奏パターンに合わせて沖縄の五音音階による旋律を教師が演奏し、曲の感じの違いに気付くようにする。</p> <div data-bbox="790 1153 1268 1299" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【伴奏パターン例】使用する音 ドとソ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 4分音符 ② 付点4分音符と8分音符の組み合わせ ③ 2分音符 </div> <p>◇つくった音楽の曲の感じを具体的に言葉で伝えて価値付けする。（視点2-②）</p>	
	<p>〈 Aと判断される児童の状況例 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いて様々なことに気付くこと、旋律をつくること、友達と旋律をつなげてまとまりのある音楽をつくることに興味・関心を持ち、思いや意図をもって表現を工夫し、思いや意図を明確にしながら、音楽づくりの学習に取り組んでいる。 <p>〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような音楽をつくるかの見通しをもつように手順を可視化し、相手の思いを受け取って表現を工夫できるような友達とペアにする。 ・全体の説明後に個別に声をかけて、時間内に達成できる分かりやすいめあてをもつようにし、スモールステップで学習を進められるようにする。 ・つくった旋律を教師やペアの相手が一緒に演奏するなどして、音楽づくりの学習に最後まで取り組めるように支援する。 	<p>◆態① 〈行動観察 ・発言内容・ワークシートの記述内容 第1時から第5時を通し継続して観察〉</p>

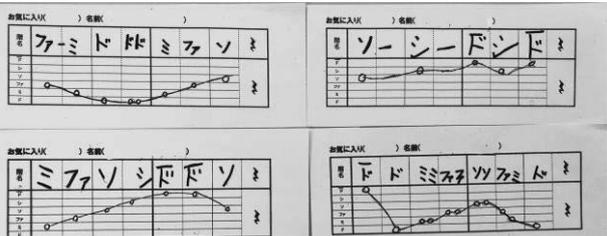
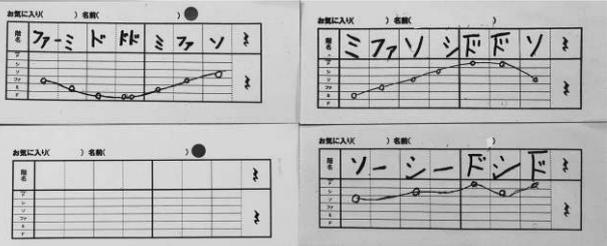
7 本時の展開

3 時間目

(1) 本時のねらい

旋律の特徴を聴き取り、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準 〈評価方法〉
<p>○音楽の仕組みを使って、4分の4拍子8小節のまとまりのある音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを知る。 	<p>◇前時の学習を振り返り、本時のめあてを問いかけ、確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【本時に必要な教具】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律を記録したカード ・未記入の記録カード 3枚 ・シール2色 3枚ずつ ・記録カードを貼る台紙 各ペア1枚 </div>
<h3>せんりつのつなげ方を工夫して、8小節のまとまりのある音楽をつくろう</h3>	
<ul style="list-style-type: none"> ・前時に記録した旋律を友達に紹介する。 ・例を見て、どのように8小節のまとまりのある音楽にするかについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼びかけとこたえでつなげて8小節にする。 ・同じ旋律を反復させて8小節にする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの別の旋律をつなげると、音楽がどんどん変化していくように感じる。 ・同じ旋律を反復させると1つの音楽にまとまったように感じる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が演奏する二つの旋律を聴き比べる。 <p>例1</p>  <p>例2</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ◇複数の旋律を記録してある児童は、すべての旋律を友達に紹介するように話す。 ◇前時で児童がつくった旋律のうち、旋律のリズムや音の連なり方が異なり、終止音がドのものと、そうでないものの合計4つを選んでおき提示する。 ◇違う旋律の4枚のカードを並べた場合(例1)と、反復や呼びかけとこたえを使って8小節になるように並べた音楽(例2)を示し、違いを感じ取るようにする。 ◇どのように組み合わせたら全体的にまとまりを感じられる音楽になるかを示す。(視点1-②) ◇つなげ方を考えるときの手立ての一つとなるように、例1と例2の曲の感じ音楽的な違いに気付くようにする。

- ペアで音を出して試しながらカードを操作し、旋律のつなげ方を考える。
- つなげ方が決まったペアは、カードを台紙に貼る。
- なぜそのように旋律をつなげたのか理由をワークシートに記入する。

五音階で音楽をつくろう 4年 組()()

1	2
3	4

このつなげ方に決めた理由

- いくつかのペアが中間発表をする。
- そのつなげ方に決めた理由を口頭で伝えてから演奏をする。

【予想される児童の反応】

- 最後の音をドにすると終わった感じになると思う。
- 前半と後半に分かれている感じで、前半より後半がもり上がる感じがした。

- ◇それぞれのペアをまわり、つくっている音楽のよいところや面白いところを具体的に伝え、思いや意図を価値付けする。(視点2-②)
- ◇つなげ方が決まったら、各自がつくった旋律のカードを貼るよう促す。
- ◇児童の思考の深まりを捉える手立て(視点3)
 - 旋律を反復する場合は、未記入のカードに反復する旋律と同じ色のシールを貼り、反復を可視化する。
 - ワークシートに理由を記入することで、児童の思いや意図を見取る。

- ◇つなげ方の思いや意図、理由が明確になっているペアを選び、発想のよさや面白さを全体で共有する。(視点2-①)
- ◇ペアでつくった音楽のよさや面白さ、曲の感じを具体的に言葉で表して価値付けをする。(視点2-②)

◆各自がつくった旋律の音の動きの特徴を聴き取り、それらの組合せが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、旋律のつなげ方を工夫し、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。

思・判・表②〈演奏聴取，発言内容，記述内容〉

〈Aと判断される児童の状況例〉

- それぞれの旋律の特徴に気付き、その特徴を生かしたつなげ方を友達に提案している。
- 音を出して旋律を確かめながら、まとまりを意識した音楽を工夫している。

〈Cと判断されそうな状況への手立て〉

- ワークシートに理由が書けない場合は、板書や掲示物から既習のキーワードについて思い出せるような言葉掛けをし、どのようにつなげたのかが理解できるようにする。
- 教師や友達が出す音を聴いたり、旋律の一部を一緒に演奏したりして自分の好きな組合せを選ぶことで、どのような音楽をつくるか思いをもつことができるようにする。

- 本時を振り返るとともに、次時の内容を知り、見通しをもつ。
- めあてを振り返って自己評価をする。
- 次時は全グループ、伴奏に合わせて発表することを覚える。

- ◇自己評価をするための発問「まとまりのある音楽になるように旋律のつなげ方を工夫しましたか？(おおむねB)」「自分の考えを友達に提案して、よりよい音楽になるように工夫しましたか？(A)」(視点3)

助言者の言葉

旋律づくりの学習は、昭和22年の学習指導要領試案から提示されてきましたが、とくに昭和40年代に行われた岐阜の古川町立古川小学校「ふしづくり一本道」の実践には、学生ながら感動を覚えたのを思い出します。現在の音楽づくりは、そのころとは様相が変わり、「音楽を形づくっている要素」をもとに児童の発想を生かしつつ協働して様々な音楽をつくり出します。

本題材での音楽づくりを通して、児童が音楽をつくるよさや面白さを見つけ、深め、次の学習に生きる学びを得られることを期待しています。

元東京学芸大学 准教授 石上 則子